

吉崎マーナが日本ジュニア優勝!! 全米女子アマに出場!

吉崎マーナが「第69回日本ジュニアゴルフ選手権」の女子15歳～17歳の部で初戴冠を果たした。8月20日～22日にわたり、霞ヶ関カンツリー倶楽部・西コースで行われ、66名の選手が出場。吉崎は最終日に首位タイでスタートすると、5つスコアを伸ばし、通算12アンダーパーで見事に優勝。「全米女子アマチュアで日本人で唯一マッチプレーへ進出し現地メディアからも注目されました。世界のトップ選手としての経験を削る経験が、今回の日本ジュニアでの優勝につながったと思います。自分を信じて最後まで自分のプレーに徹する事ができたのも大きな成長へのポイントだと思います」と、勝因を振り返った。

良い経験となったと言う「全米女子アマチュアゴルフ選手権」とは、トッププロへの登竜門となる大会。8月4日～10日にオレゴン州バンドンにて開催され、吉崎はストロークプレーを1アンダーの49位タイ、その後のマッチプレーではラウンド64で敗退となった。

帯同した父親の吉崎俊朗氏は、マッチプレーで敗退した試合について、「7ホールまで4ダウンとかなり厳しい状況となりましたが、諦めない気持ちと勝利への思いで粘り前半を2ダウンで折り返せました。そして15ホールではタイスコアへ持ち込み勝利も見えていたのですが、差しきれずに最終ホールで相手にバーディーを取られて惜敗となりました」と、戦いぶりを報告。マーナは「今まで経験したことのないフェアウェイとグリーンのアングレーションを使って寄せていくなど、マネージメントをされていてとても楽しいコースでした。このようなコースで初めてプレーをし自分の足りないところも新たに見つかりました」と楽しみながらも学びが多

かったようだ。

日本ジュニアで優勝したことで、プロテスト2次が免除となった吉崎は、「11月のプロテストファイナルに向けて集中して準備ができます」と、経験と結果を出しながら、合格に向けて意欲を見ている。



日本ジュニアで優勝し、プロテスト2次免除を獲得した吉崎マーナ



アマチュア最高峰の大会「全米女子アマ」に出場し、日本人で唯一マッチプレーに進出した

PROFILE

吉崎 マーナ

Mana Yoshizaki

生年月日：2007年9月17日生まれ（17歳）

出身地：沖縄県

ゴルフ歴：7歳～

戦歴：2025年 Sky RKB レディースクラシック ベストアマチュア、2024年・2025年 ダイキンオーキッドレディス 2年連続ベストアマチュア、2025年 OBS九州女子ジュニアゴルフ大会 優勝、2025年 第66回日本女子アマチュアゴルフ選手権4位タイ



全国小学生テニス出場選手を イベントで直接指導！



イベントに参加した約 30 名のジュニアたちとプロ

小学生の頂点を決める「第 43 回第一生命全国小学生テニス選手権大会」が 8 月 5 日から 9 日にわたり、第一生命相模園テニスコートで開催された。この大会の歴代の優勝者には錦織圭や西岡良仁、内島萌夏ら日本を代表する選手たちがおり、テニスに打ち込んでいる小学生にとって、将来の可能性を広げてくれる大会でもある。今年は地区予選に約 4,500 名が参加し、戦いを勝ち抜いた 128 名の選手が全国の舞台に立った。

この大会では昨年より猛暑を考慮してコンソレーションマッチではなく、プロと打ち合えるイベントを実施している。今年は 8 月 7 日に 2 部制で行ない、レッドクレイ 4 面を使って約 90 分間、プロから学べる機会となっている。そのイベ

ントにチーム HAT のメンバーである、吉田友佳、井上明里、森崎可南子、小関みちか、小林ほの香、奥脇莉音、井上雷都の 7 名のプロが参加し、約 30 名の有望ジュニアたちと打ち合いアドバイスをを行なった。

雨が心配される時間帯があったものの、無事最後まで実施することができ、子どもたちに試合以外のプラスアルファとなる体験を提供することができた。

参加した森崎プロは、「純粋にボールに食らいつく姿や楽しそうにしている姿に、私自身もエネルギーをもらえました！」、吉田友佳プロは「ジュニア選手にとって貴重な機会になったと思います。これからも夢と目標を持って頑張っていってほしいと思います！」とエールを送った。



たくさんのジュニア選手と一緒にテニスができ、とても楽しかったです。将来の夢や目標に向かって頑張っている選手たちと交流し、自分自身にも良い刺激になりました。

by 小関みちか



純粋にテニスや勝負を楽しむ子どもたちの姿がとても印象的でした！それぞれの目標を持って、達成できるよう頑張ってください！

by 井上明里



楽しそうにテニスをする子どもたちがたくさんいて、とてもうれしく思います。これからもテニスを楽しむ、試合で勝つ喜びを忘れずに頑張っていってほしいです。by 井上雷都

イベントの様子



イベントに参加したチーム HAT メンバー。左から井上明里さん、小林ほの香、小関みちか、井上雷都、橋本政昭会長、奥脇莉音、森崎可南子、吉田友佳さん



選手たちのレベルが高く、本当に驚きました。勝ち負けに囚われてしまうと思うのですが、まずは楽しむことを忘れず、テニスを好きな気持ちを忘れずに、頑張ってください！

by 奥脇莉音



レベルの高い子どもたちとたくさん打ち合うことができ、これからの成長が楽しみだなと思いました！この日が少しでも子どもたちの成長に繋がると嬉しいです！

by 小林ほの香



テニス
TENNIS

柴原瑛菜が全米オープン予選突破 岡村恭香が予選に出場

今年最後のグランドスラム「全米オープンテニス」の予選に柴原瑛菜と岡村恭香が出場。柴原は予選を突破し、昨年に続き本戦出場を果たした（予選：8月18日～8月21日 本戦：8月24日～9月7日）。

予選の第20シードで出場した柴原は、予選3試合をストレートで勝利して本戦の切符を手に入れた。本戦1回戦の相手は、2021年全米オープン覇者であるラドゥカヌ。会場で2つ目に大きなスタジアムで試合が行われた。攻撃的な姿勢を見せる柴原だったが、しっかりと返球してくるラドゥカヌより先にミスが出てしまう。攻撃的なショットの確率を上げることができず、1-6、2-6で敗退となった。

柴原は、「厳しい予選を勝ち上がり、今年も本戦でプレーできたことは本当にうれしく、大きな経験になりました！本戦でしか味わえない緊張感や雰囲気の中でプレーできたことは、自分にとって大きな財産です。課題も多く見つかりましたが、来年はこのレベルでしっかり勝てるように、さらに成長していきたいと思います。橋本総業の皆様、いつも温かい応援を本当にありがとうございます！」とコメントした。

岡村は予選で勝利を挙げられなかったが、プロ11年目にして初めて全てのグランドスラム予選に出場することができた。岡村は「最高峰の舞台に立ち、トップ選手とボールを交わしたことで、自分の可能性と課題をはっきりと見ることができました。私の年齢になってもまだ成長できる部分が見つけれられること、そして夢を追うことを応援して下さる皆様がいることに改めて幸せを感じております。まずは秋のアジアシリーズ、そして全日本テニス選手権、日本リーグで良い成績を残せるよう、今回の悔しい気持ちを糧により一層精進してまいります」と日本の大会での活躍を誓った。

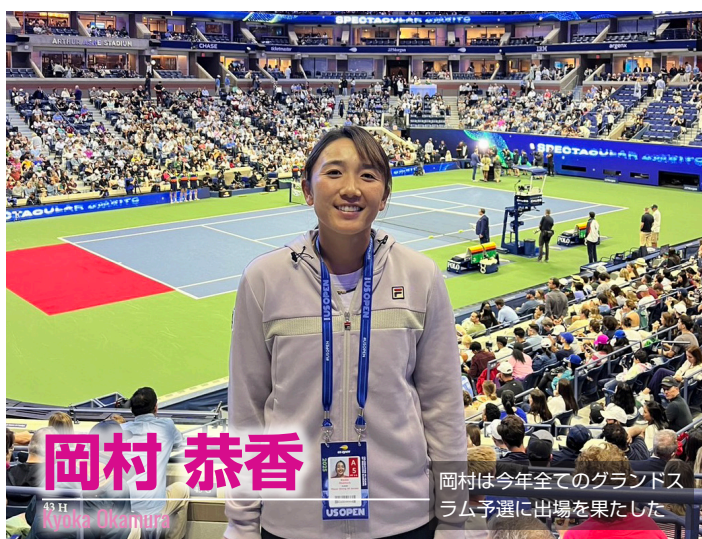


柴原 瑛菜

予選3試合を見事にストレート勝利し、本戦に駒を進めた柴原

柴原瑛菜(128位)のシングルス結果

	スコア	対戦相手(国籍)
本戦1回戦	×	1-6 2-6 Emma Raducanu(GBR)
予選3回戦	○	6-0 6-4 Varvara Gracheva(FRA)
予選2回戦	○	7-6(5) 7-6(7) Elena Pridankina(RUS)
予選1回戦	○	7-5 6-1 Kayla Day(USA)



岡村 恭香

岡村は今年全てのグランドスラム予選に出場を果たした

岡村恭香(204位)のシングルス結果

	スコア	対戦相手(国籍)
予選1回戦	×	3-6 5-7 Justina Mikulskytė(LTU)

福田 創楽

Sora Fukuda

ITF M15
DOUBLES
優勝

ITF M15
シンガポール・シンガポール
8月4日～8月10日
ダブルス優勝

ITF M15
DOUBLES
準優勝

ITF M15
シンガポール・シンガポール
8月11日～8月17日
ダブルス準優勝

ITF M15
SINGLES
準優勝

ITF M15
シンガポール・シンガポール
8月4日～8月10日
シングルス準優勝

小堀 桃子

Momoko Kobori

ITF W50
DOUBLES
優勝

ITF W50
スペイン・オウレンセ
8月4日～8月10日
ダブルス優勝

大前 綾希子

Akiko Omae

ITF W35
DOUBLES
優勝

ITF W35
イギリス・オールダーショット
8月11日～8月17日
ダブルス優勝

坂詰 姫野

Himeno Sakatsume

ITF W50
SINGLES
優勝

ITF W50
カナダ・サスカトゥーン
8月11日～8月17日
シングルス優勝



&



素朴な疑問を聞いてみよう!



試合前日に相手の動画を
見ておきます

質問

試合前には
どんなことをしている?

答え
1

前日の寝る前には
相手の動画を見る

試合の前日の寝る前に、相手の動画を見ておきます。まったく相手のことを知らないよりは、こういうプレーをするんだということを知っておくと、なんとなくポイントをイメージすることができます。

答え
2

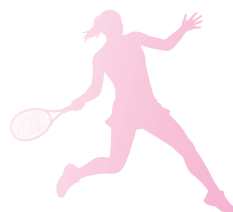
試合前には
走って音楽を聴く



自分の前の試合のファーストセットが終わって少ししたら、ウォーミングアップ。走って少し身体が温まってきたなという状態にしておきます。その後、試合までの間は音楽を聴いています。これから試合が始まるぞという、自分への合図のような役割があると思います。

答え
3

本当に直前には
ガムを噛む



試合直前になるとガムを噛んでいます。コート上でのウォーミングアップの時に噛んでいることがあります。終わったらガムを捨てて試合に入ります。ガムを噛む理由は特にありませんが、必ずガムを持っていっています。

PROFILE

教えてくれたのは… **小堀 桃子** プロ

Momoko Kobori



1998年8月22日生まれ。埼玉県出身。
160cm。
4歳でテニスを始め、2017年にプロ転向。
2022年全日本単複準優勝。24年W35京都でシングルス優勝。ダブルスではITFツアー25大会に優勝。WTAダブルスランキング自己最高125位(2025年8月11日付)

ゴルフ
GOLF

T O P I C S

寺岡沙弥香が惜しくも2位



昨年のプロテストでトップ合格を果たした22歳のルーキーである寺岡沙弥香が、8月15～17日に行われた「NEC 軽井沢 72 ゴルフトーナメント」に出場。最終日に最終組で回り熾烈な優勝争いを繰り広げたが、惜しくも2位となりプロ初優勝とはならなかった。



プロ1年目から上々の結果を出している寺岡沙弥香

プロテスト1次予選8月の結果

7月から8月にかけて行われたプロテスト1次予選に契約・サポート選手が出場。8月に行われた結果を報告する。2次予選は9月に実施される。

氏名	会場	結果
小島彩夏	滋賀県・信楽カントリー倶楽部 田代コース	-4 / 17位Tで通過
山本真生	福島県・五浦庭園カントリークラブ	+5 / 48位Tで通過ならず
沓澤莉子	福島県・五浦庭園カントリークラブ	-1 / 12位Tで通過
播磨知優	福島県・五浦庭園カントリークラブ	+17 / 105位Tで通過ならず
前里奈々	福島県・五浦庭園カントリークラブ	0 / 20位Tで通過
賀数心南	愛媛県・エリエールゴルフクラブ松山	+15 / 99位Tで通過ならず